



○新潟市中学校体育大会の感想

6月15日、16日、21日に令和7年度の新潟市中学校体育大会が実施されました。

当校からは女子バレーボール、卓球男女、部活としての登録はありませんが硬式テニス、剣道、水泳の6種目に参加しました。また、野球や男子バレーボールはクラブチームから大会に参加した種目もありました。臼井中学校として上位大会へ駒を進めた種目はありませんでしたが、どの種目も最後まで強い気持ちで勝負に挑んできました。この挑戦する経験の積み重ねが、一人一人の成長に繋がります。3年生は部活動の一線から退き、ここからは1,2年生が引き継いでいくことになります。2年生,1年生の皆さんには、秋の新人戦に向けて、日常の小さなチャレンジを積み重ねていってくれることを期待します。

〔バレーボール〕3年 田辺 心花

私は、今回強いチームと戦い全然歯が立たない状況でしたが、チームのみんなと協力し、1点でも多く取れるように頑張りました。結果は負けてしまいましたが、最後の大会で楽しくプレーをすることができて良かったです。

〔卓球 女子〕3年 内山 柚季

卓球部は団体戦と個人戦に出場しました。結果は負けてしまいましたが、今まで支えてくださったコーチたちのおかげで、ここまで成長することができました。臼井中として仲間と最後まで戦えることができてとても嬉しかったです。

〔卓球 男子〕2年 新田 健友

今回が初めての市内大会で団体戦は、予選リーグ敗退、個人戦は2回戦までで負けてしまいました。今回の大会で色々な課題が見えてきたので、これから秋にある新人戦は成果が残せるように練習していきたいです。

〔硬式テニス〕3年 熊倉 啓寿

今回が最後の大会でしたが、今までの練習で習ったことを生かして、なんとかベスト16に入ることができました。入賞はできませんでしたが、課題だったところも本番はうまくできたので、悔いなく終われて良かったです。

〔剣道〕1年 内山 鉄生

剣道の部に参加しました。他の選手は強く、結果を出すことができませんでした。自分の実力がまだまだ足りなかったとつくづく感じました。でもとても良い経験になりました。この悔しさをバネにして、2年生、3年生では、入賞できるよう、練習に励んでいきたいです。

〔水泳〕1年 生野 辰実

200m個人メドレー決勝のスタート台に立った足は震えていました。「ドン！」無我夢中で泳ぎゴール。5秒もタイムを縮めました。でも9位で、8位の人とはあとわずかの差ですごく悔しかったです。2年生では市内大会で入賞し、県大会に出場しようと心に誓いました。

「人間はお互いに助け合い、そして利用し合わねばいかんよ。」

(ゲゲゲの鬼太郎 ねずみ男の名言より)

いよいよ明日からはじまる夏休みを前に、ひとつお話をさせていただきます。それは、「命の大切さ」ということです。ちなみに昨年の1学期終業式では、「三人のお世話にだけは絶対にならないように」という話をしました。2,3年生の皆さんは覚えていますね。その3人は、「お医者さん」「お巡りさん」「お坊さん」でした。その3人目の「お坊さんのお世話にはならない、命を大切にしましょう。」というようなお話をしました。

この「命の大切さ」については、みなさんは生まれてから、お家の方や先生方から耳にタコができるくらい、何十回、何百回と聞いてきたことでしょう。でも、残念なことに毎年何人かの児童・生徒が、様々な事故によって尊い命をなくしている現実があります。夏休みには水の事故や交通事故が増える傾向にあります。ですから、皆さんにはそれらの事故に対して、ぜひ自分事としてとらえてもらって、事故に十分に気を付けながら夏休みの楽しい時間を過ごして欲しいのです。6月の避難訓練にも話をした「備えあれば憂いなし」の言葉どおり、どこにどんな危険が潜んでいるのかをしっかりと考えて、自分自身の心の準備を整えながら30日間の夏休みを有意義に過ごしてください。

また、夏休みの後半から9月にかけては、全国的にみて児童・生徒の自殺が増える時期と言われています。ここ数年、全国の中学生の自殺者数は1年間に約150人と高止まりの状態です。これからたくさんの様々な経験ができる将来が待っているのに、その可能性を自ら絶ってしまうことは本当に切なくて、悲しいことです。生きていれば楽しいことばかりではないかもしれませんが。辛いことや厳しいことも当然あります。でも、そのような場面に出会った時こそ、「自分は一人で生きているのではない」家族や友達、地域、たくさんの支えてくれている人達の顔を思い出して欲しいのです。あなたを必要としているたくさんの人たちの顔をぜひ思い浮かべてほしいのです。

この間、教室の前のフリースペースにある「心に響く まんがの名言」を読みました。ここ最近はまだ漫画を読む機会が少ないのですが、ゲゲゲの鬼太郎に出てくるねずみ男の名言に目が留まりました。マンガの中で、ねずみ男はある恵まれない少年に出会い、その少年の境遇を聞いて気の毒に思います。そして一言、「人間はお互いに助け合い、そして利用し合わねばいかんよ。」と言うのです。ねずみ男が「利用する」なんて言うのを人だまして自分に都合よく使うのか、と思ってしまいますが、そうではありません。人はそれぞれに得意なことや不得意なことがあるので、お互いにそれを補い合って賢く生きていこう、と言っているのです。困っている時は「困っている」と声に出して、周りの人を頼っていいのです。私たちが暮らすこの社会は、人と人とのこうした繋がりによってできているのです。

ねずみ男は、ずる賢くて悪者のイメージが強いと思います。でも、そのねずみ男の言葉だからこそ、人間らしい(元々ねずみですが)いい名言だなあと私は感じました。人は誰でも辛いとき、困ったとき、そんな時は「助けて」と言っているのです。一人ではなかなか難しいことがたくさんあるから、家族がいて、仲間がいてくれるのです。辛いときや困ったときにお互いに助け合うからこそ、困難を克服していくことができるのです。そんな仲間がたくさんいる場所のひとつが白井中学校であって欲しいと願っています。

大切なことなので、最後にもう一度言います。皆さん一人一人が自分事として「命を守る行動」をとってください。そして、2学期始業式には、またこうして皆さんと元気にお会いしましょう。

では、皆さんにとって有意義な良い夏休みになりますように。

【1学期終業式の校長講話より抜粋】

